

事後評価シート

調査研究課題名	県境地域を対象とした広域的な地域づくりに関する研究 ～県境地域の状況と県境を越えた連携の促進について～
担当者	七澤研究調整官・松野前研究調整官・佐藤研究官・台本前研究官
①当初目標と目標達成度	<p>本調査研究では、県境を跨ぐ地域を含む広域連携の事例を収集し具体的な連携内容、連携体制等をアンケート及びヒアリングにより調査するとともに、海外の事例（欧州地域連携政策）について調査を行った。また、県境を跨ぐ地域とそれ以外の地域の地域状況などを把握し比較することにより、県境を跨ぐ地域の特異性等について分析を行った。さらに、県境が人口流動に及ぼす影響を定量化する手法を開発した。その結果から、県境連携の課題、県境連携の実施や支援のあり方について明らかにすることができた。従って、当初の目標を達成したと考える。</p>
②調査研究内容の妥当性	<p>本研究では、「県境地域の人口動向分析」、「連携に活用可能な制度と取組事例の把握・分析」及び「連携分野と地域特性との関係分析」を実施し県境地域の特徴、課題や県境を越えた地域連携の傾向、効果、促進等を整理した。また、県境が人口流動に及ぼす影響を定量的に評価する手法を開発し、実際の県境地域のデータを用いて検証して妥当性を確認した。</p> <p>さらに欧州委員会等へのヒアリングを行い、欧州で実施中の越境連携政策の実施背景、運用方法、適用実態等を調査し、特徴や参考となる点などを整理した。</p> <p>以上の結果から、県境地域の課題を明らかにし、今後の県境連携の実施や支援のあり方適切に検討することができた。</p>
③調査研究の仕組みの妥当性	<p>県を越えた連携に関する有識者として豊橋技術科学大学教授の大貝先生と東三河地域研究センター常務理事の戸田先生により、的確な意見・示唆を受けながら調査研究を進めることができた。</p>
④成果と活用	<p>研究成果を対外的に公表するとともに、今後の国土交通政策の検討材料として役立てる。</p>
⑤その他	<p>PRI Review 第 30 号（2008 年秋期）、PRI Review 第 32 号（2009 年春期）、 PRI Review 第 34 号（2009 年秋期）、土地総合研究 第 17 巻第 2 号（2009 年春）に掲載 平成 21 年 5 月にアンケート調査結果をプレスリリース、 日本都市計画学会「国土広域地方計画研究会」「越境地域連携システム研究会」合同研究報告会</p>

(平成 21 年 7 月 29 日開催) にて本研究を発表

意見